平成１８年7月１３日

開放系試験栽培の届出書に関する調査審議の結果について

にいがた食の安全・安心審議会

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構から届出の開放系組換えイネ試験栽培届出書の内容について、下記のとおり意見の取りまとめを行う。

記

１　届出内容は、栽培基準等県条例に適合しており、妥当と判断する。

２　なお、議論の過程で委員からは北陸研究センター及び届出に対して以下の意見があった。

・交雑防止措置としての出穂期の差を県条例の２週間以上に対して、３週間を目指していること、さらに栽培区を不織布で覆うことにより花粉飛散防止を追加するなど、より慎重に対処していると考えられる。
・交雑の有無を確認するために隔離距離の範囲内での指標モチ品種の栽培に加えて、100 ～ 250 mの地点にも組換えイネと同時期開花の指標モチ品種が栽培されるが、その結果の公表にあたっては、ＤＮＡ分析データなど詳細な結果を開示すべきである。
・まだ開放系実験に不安を感じる人が多くいることから、試験計画や試験結果の説明にあたってはできるだけ丁寧に判りやすく行うとともに、より慎重に実験を進めるべきである。

３　この審議会に設置されている遺伝子組換え作物に関する専門部会を通じて、実験が計画通り進められているか、適正な交雑・混入防止 措置がとられているか、などを確認するために現場調査を適宜実施することとしたい。